

現在熱田神宮が千九百年祭を行っておりますが、熱田神宮の元宮は現在の氷上姉子神社です。実はさらにその元宮のあった場所が

## 私儀

加古藤市が現在住まいする愛知県大府市明成町一丁目百七十三番地であります。すなわち、熱田神宮の一番初めの場所が私の住まいする場所なのです。

熱田神宮のそもそもの成り立ちは、現在の熱田神宮を、さかのぼること三百年、今から約二千二百年前、

小碓尊こつすのみことが父景行天皇の命により蝦夷征伐に行く途中に通られた場所で、今でも地元の人たちの言い伝えが残っています。私の家の敷地内に小碓尊こつすのみことが通られた道がありました。

小碓尊こつすのみことは「蝦夷が何をしているやら、何も聴かされず知らず、判らず征伐に行くといったのでは、私の正義良心が天神に赦されず、今日より蝦夷に愛の産霊むすびに行くのです。」と

お誓いに成ると、生命生産せいめい うみだ出し熱田の生産しょうぶの神【天照皇大御神みかみ】が、大腑だいふの森に有った大銀杏の樹の上に、一度だけ姿

をお見せに成り、「小碓尊よ、その靈魂たましいこそ日輪太陽の大御意みごころ志であり、その靈魂たましいこそが、生きとし生ける総ての命に、志合せ福祉をもたらす靈魂たましいであり、今日より日本長やまとたけるを名乗るが良い。」と仰せになられた神霊地で御座居ます。

それ以来、小碓尊が日本長やまとたけるをお名乗りになられ、尾張族の幡頭・建稻種尊を副將軍とされ、蝦夷へ愛の産霊むすびに行かれ

ました。この愛の産霊むすびの精神こそ、不戦の精神、日本国の憲法第九条の精神であります。それゆえ、その霊魂たましいを持つ小碓尊こそ日本の長に相応しい方であるので、神は日本長やまとたけるを名乗らせになったのです。

この事を生命生産出し熱田の生産の神「天照 皇 大御神」あまてらすすめらのおおみかみが、不戦の霊魂である大和魂発祥の地に住まいする、私加古藤市に明らかに御啓示くださいましたので、謹んで申し上げます、お許しくださいませ。

せいめいうみだ  
生命生産出しの神と與謝身昭和天皇の  
みこころ  
御意志としての憲法第九条

先の大戦で亡くなった靖国の御霊魂みたまの「二度と戦争のない国が世界が欲しい。このような戦争で夫婦が、親子が、兄弟が、悲しい別れをするのは我らだけで沢山だ。」と、いう思いを昭和天皇がお気づきになり、憲法第九条にその精神を表しになりました。

憲法第九条は、アメリカから押し付けられた憲法だと言われていますが、昭和天皇は、戦争で亡くなった総ての御霊魂みたまのお声をお聞きに成り、その御霊魂みたまの声を無駄にすることなく、靖国の御霊魂みたま達が、また世界中の戦争殉難者が、もつとも、安らぐことの出来る方法として、不戦の誓いをお立てに成られました。

その昭和天皇の不戦の誓いを、形として現したのが憲法第九条なのです。

與謝身天皇として、この地球上の総ての生き物、植物・

動物・人間の三者の健やかな繁栄を願うべき存在でありながら、国民を戦争に赴かせた責を痛感し、その結果として多くの人々の命が奪われたことに、胸が張り裂けんばかりのお悲しみを感じられ、二度とこのような事が起らぬ世の中になつて欲しいという願いが込められているのが、日本国憲法第九条なのです。

もとより戦争の責任は天皇お一人にあるのではありませぬ。明治以来、日本を戦争に駆り立ててきた明治政府の権力者たち、その権力者に従つて戦争を行つてきた軍部、その軍部の暴走を止めることが出来なかつた国民にも、その責任はあります。日本国民全体に責任があり、その責任を明確にするため、日本はアメリカによる原子爆弾の投下の憂き目にありました。

日本が再びこのような事態に見舞われたとしたら、先の大戦で亡くなつた人々のたましい霊魂が何と思つてでしょうか。「われわれの死は無駄死でしかなかつた」と思つてでしょう。

交通事故の被害者の肉親や、犯罪被害者の肉親が決まつて言うことは、「このよつな悲しい思いをするのは私たちだけで沢山です。二度とこのよつな悲しい思いをする方が出ない事を望みます。」と言つ言葉です。

戦争被害者本人やその関係者の思いもまた同じでしょう。私たちは、先の大戦で多くの人々の犠牲と引き換えにその思いを学んだのです。

昭和天皇は、日本国が原爆を製造する事を厳しくお諫めになりました。原爆はただ単に人を殺すだけでなく、生命界（植物、動物、人間）の遺伝子を破壊するからです。遺伝子が破壊されると、この地球上の総ての生き物が生きて行けなくなります。それは、この生命界の滅亡を意味することになります。

す。これでは神が何のために、この生命界をお造りになったのか、その意味そのものが失われてしまいます。與謝身天皇として、譲ることの出来ない最後の一線だったのです。このように與謝身天皇としての魂をお失いになつてはいなかつた昭和天皇が、切にお望みになられたのは、先の大戦を反省し二度とこのような生命界の危機を招くような事態を起ささないことでした。

明治政府は、諸外国から国を護る為に富国強兵策をとり、強力な軍隊を創りあげました。その強力な軍隊が、日本の国を亡ぼしてしまつた歴史を振り返ると、国を護るものは軍備ではないことに気付かなければなりません。世界の国々と仲良くすることこそが最大の国防なのです。昭和天皇はその思いを憲法第九条に託したのです。終戦当時、昭和天皇こそが最も不戦の思いを強く願われた方だったのです。そのため常に世界平和を謳われ、外交の世界で、世界の国々の平和に貢献されたのです。

その昭和天皇のお気持ちをお受けとめになられた、初代イザナギ尊と初代イザナミ命は、天上界の神々とご相談になられ、憲法第一条に天皇の地位を保全され、憲法第九条に不戦の誓いを形としてお現しになりました。

あまてらすすめらのおおみかみ

また、「天照 皇大御神」は、幕末時代、最も不戦の精神をお持ちであつた孝明天皇の御靈魂みたまを天皇家に蘇らせることを決定なさつたのでした。

平成十四年四月二十六日、私の長男である時男がなくなつた時、その靈魂を二つに分け、一つは孝明天皇の護衛の隊長旭形亀太郎を生まれ変わらせ、もう一つは孝明天皇の靈魂を天皇家に復活させるといふ、お告げを頂きました。

人は死ぬと四十九日までは生魂のままであり、その間に過

去の靈魂と結ぶと過去の靈魂を生まれ変わらせることが出来るという靈界の仕組みをお教え頂くと共に、孝明天皇を復活させるその靈魂は、憲法第九条の精神を最も具現された日本やまとの長尊たけるが熱田の神を祀り、この世でただ一度だけ「天照 皇大御神」あまてらすすめらおのみかみが姿をお見せになった、大腑の森のこの地で生まれ育った私の息子をおいて他にないと、「天照 皇大御神」あまてらすすめらおのみかみが決めになったのです。

「天照 皇大御神」の仰せの通り、平成十七年三月十四日孝明天皇をお祀りする、愛知県知多郡豊武町向陽にある玉鉾神社の宮司家に男児が誕生され、次いで、平成十八年九月六日に秋篠宮家に男子親王様が御生誕にられました。

今再び、孝明天皇を生まれ変わらせるその意味は、この平成の時代、日本のリーダーに、確固たる不戦の靈魂たましい、神の定めた、憲法第九条の精神を蘇らせることが、日本を救うのみならず、世界を救うことにつながります。その重大な使命を秋篠宮家にお下しにられましたのです。

戦争で命を落とした、世界中総ての戦争殉難者の靈魂の救済のために、世界平和神宮院と並びの宮として、不戦の魂をお示しにられた昭和天皇の昭和神宮を建立することが、「二度と戦争の無い世界」への道標となり、日本が昭和天皇の御意志みこころとしての憲法第九条を護り通していくことが、日本国を護ると共に世界平和への貢献となるのです。これらの事が実現した時、日本の天皇は、與謝身天皇として、世界のメシヤとして、世界を救う事になります。これこそが、日本国民の総意に基づく天皇家の使命であり、意義であり、「天照

すめらのおおみかみ　　おおみごころ  
皇大御神」の大御意志でもあります。

平成二十年のこの年にあたって、昭和二十年の昭和天皇の御意志を、もう一度蘇らせることが與謝身天皇としての御使命ではないでしょうか。今上陛下が昭和天皇の御意志をお守りになり、諸外国から尊敬の念を受ける、憲法第九条の国の精神的指導者となれることが、世界恒久平和への道をより確かなものとすることになるのです。

平成二十年六月二十一日

〒四七四・〇〇五六

愛知県大府市明成町一丁目一七五

三代目 東核芒種大伝道師

加古藤市